



<http://www.hcr.or.jp>

Int. Home Care & Rehabilitation

## CONTENTS

H.C.R. 2010 国際シンポジウム 「ヨーロッパの医療制度改革の 動向と評価」を開催！	1
H. C. R. スキルアップ講座報告 障害者福祉施設における 虐待防止対策のポイント	2
携帯電話と福祉機器 日常生活や就労へ簡単に利用できる 機能やサービスの数々	5

はじめての福祉機器Q&A 第8回 ホームエレベーター	8
-------------------------------	---

第37回国際福祉機器展 H.C.R. 2010のご案内	8
--------------------------------	---

編集・発行：財団法人 保健福祉広報協会  
Publisher : Health and Welfare Information Association  
住所：〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル  
TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798  
定価1部 200円 (消費税・送料込)

EUROPE



## H.C.R. 2010 国際シンポジウム

### 「ヨーロッパの医療制度改革の 動向と評価」を開催！

現在、オバマ大統領が先頭に立って医療制度改革を進めるアメリカをはじめ、ヨーロッパや日本など先進各国では医療制度改革が緊急の課題となっています。

少子高齢化が進むなかで、医療制度を含めた社会保障制度の増大する経費を税や保険料で賄うのには限りがあります。

先進各国では少子高齢化が進むとともに医療費が上昇し、国の医療制度を決める大きなファクターとして財政面の健全性が最前列に立つようになりました。

近年、各国が財政面の効率化を目指し導入した競争原理は、平等性を失くすだけでなくかえって医療費の増加を招くこともありました。しかし、待機時間の短縮などの快適性や医療の質などでは効果が上がっています。

医療に関わる課題を全て同時に改善させることは不可能です。それでも先進各国の政府は、財政支出を如何にコントロールしつつ、国民の実情に合わせて医療の質、平等性、快適性をどう組み立てていくかを模索しています。

ここでは欧州の医療制度改革の動向と評価を学ぶとともに、わが国の医療制度のあり方を考えます。



日時：2010年9月30日 (木)  
13:00 ~ 15:30  
会場：東京ビッグサイト会議棟6階  
605 ~ 608会議室  
定員：250名  
参加費：1,000円  
参加申込方法など詳細は順次Webサイト (<http://www.hcr.or.jp>) に掲載  
講師：ブルーノ・パリエ氏  
パリ政治学院教授、ヨーロッパの社会保障制度改革審議会メンバー

#### ブルーノ・パリエ氏 Profile

1966年生まれ。1999年、パリ政治学院で博士号取得。現在、パリ政治学院教授、フランス国立科学センター研究員、フランス政治・福祉研究センター研究員。また、ヨーロッパの社会保障制度改革審議会メンバー  
主な著書に Gouverner la Sécurité sociale, Paris, PUF, 2002.、「医療制度改革—先進国の実情とその課題」(白水社、2010年)、「アンデルセン、福祉を語る」の解説(NTT出版、2008年)のほか多数。



チューター：近藤 純五郎氏  
弁護士、元厚生労働省事務次官

## 講演要旨

保健医療制度の歴史的な発展を見てみると、その創成期には、どの国でも貧しい人々の救済が目的であった。それから、収入がある者が病気で働けなくなった時の救済措置となり、ヨーロッパでは第二次大戦後にすべての国民のための制度となっていった。

しかし、このとき各国では異なる解決策を取り入れながら制度をつくっていった。それは、各国の健康保健にかかる財政負担額と、健康保健サービスの提供方法、そして、医療従事者たちが組

織化されていく過程の違いから、生じた相違である。この相違はまた、「それぞれの国の医療制度がどこに優先順位をおいているか?」といった点にも現れている。

各国のシステムは概ね次の3つのタイプに分類できる。

- ①自由主義的システム (residual liberal system)
- ②健康保険システム (health insurance system)
- ③国民健康システム (national health system)

一方、保健医療制度、そして改革を考えると、同時に満たすことがとても難しい4つの目標がある。

- ①社会的目標：  
すべての国民が平等に医療制度を受けることの保障
- ②医療的目標：  
国民に最高水準の医療サービスを提供する保障
- ③経済的目標：  
財政支出と医療費上昇という2つのコストの管理
- ④政策的目標：  
医療システムの結果責任と患者・医療従事者双方の自由と安心に対する責任

4つの目標がどのように実施され達成されているかは、その国の政策機構・組織(医療の受益、提供されるサービスの内容、国の財政的制度、医療制度の決定調整などに携わっている機構や組織)に大きく依存する。

近年、先進国はこぞって医療制度改革に取り組んでいるが、順調にしている国は少ない。先進国の医療制度改革は、すべて、公共支出の制限あるいは減額をめざすものであるが、改革はまた同時に保険と医療の提供者間の競争に基づくシステムの改革を強く求めて、その効率性を高めようとしている。

こうした各国の改革は、社会的、医療的、経済的、そして、政治的(政策的)な目的の間で判定を下されながらすすんできている。

一度にすべてを満たした改革ができないとはいえ、選択した改革の影響を国民に明らかにしていくことは今後につながる非常に重要な事項である。

※国際福祉機器展H.C.R.2010では、国際シンポジウムをはじめ、ふくしのスキルアップ講座や腰痛予防と福祉機器など保健・福祉・介護・医療に関わる多彩なプログラムを予定しています。詳しくは本会Webサイト (<http://www.hcr.or.jp>) をご覧ください。